

2022年6月10日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

人形峠環境技術センター

## ウラン濃縮原型プラントの加工の事業に係る廃止措置の状況について

### 1. はじめに

人形峠環境技術センターのウラン濃縮原型プラント（以下、「DP」という。）の加工の事業に係る廃止措置の進捗状況及び廃止措置として実施しなければならない核燃料物質の譲渡しを行うためにDP内に新設する六フッ化ウラン（以下、「UF<sub>6</sub>」という。）の詰替・洗浄設備等の検討状況は、以下のとおりです。

### 2. 状況説明

#### 2.1 廃止措置の進捗状況

- (1) DPの設備及び機器の解体は、段階的（2段階）に実施することとしており、第1段階（維持管理設備以外の解体）→第2段階（維持管理設備の解体）の順に進める計画である。
- (2) 廃止措置計画に記載の全体工程に沿って作業を進めており、現在は第1段階として、DOP-1高周波電源設備の解体を終了し、現在、DOP-1UF<sub>6</sub>処理設備の解体を進めているところである。
- (3) 核燃料物質（UF<sub>6</sub>）の譲渡し先については、引き続き調整中である。

#### 2.2 詰替・洗浄設備の新設

- (1) 詰替・洗浄設備は、DP内に新たに設置する計画である。
- (2) 2021年度は設備設計条件の整理、プロセス設計計算を実施し、系統構成、機器基数、配置を具体化した。
- (3) 2022年度は機器設計、配管設計等を行うとともに、新規制基準での要求事項に対して設計に反映する内容の整理を行う。
- (4) 詰替設備は年間500tonU規模のUF<sub>6</sub>を貯蔵用シリンダから輸送容器へ詰め替えることのできる設備能力を有するものとする。また、洗浄設備は、輸送容器へのUF<sub>6</sub>詰替後の貯蔵用シリンダ内部を洗浄するための設備である。

—以上—